

# さきょうくしゃきょうだより



マスコットキャラクター  
あかりちゃん

「さきょうくしゃきょう」は社会福祉法人京都市左京区社会福祉協議会の略称です

## こころのひとりぼっちを なくそう

左京区で活動中の  
ボランティア  
グループ活動を  
紹介！

左京区ボランティアセンター

### 子育てママ支援サークル ★はじめのいっぽ

このサークルでは、子育て中のお母さんたちが  
特技や資格を生かし活動をしています。

2011年より活動を開始し、見守り保育付きのヨ  
ガクラスを中心に開催しており、お母さんとお子  
さんが一緒に過ごす空間でゆったりとした時間を過ご  
します。代表もヨガの講師も皆子育て中のお母さん  
です。子育て中のお母さんが活躍できる場、心の  
ゆとりができる場、つながりができる場になるこ  
とを願って運営をされています。

#### 一緒に活動してくれる方・参加者募集

資格や特技があっても、子育て中でいかせてい  
ない方一緒にはじめのいっぽしてみませんか？

代表 山崎 知子  
✉ hajimenoippodesu@gmail.com  
☎ 723-5666  
(京都市左京区社会福祉協議会)

活動の様子はこちら



#### 目次

左京区社会福祉大会・シンポジウム	
当事者・実践者の声を地域福祉活動に活かそう！	P.2・3
学区社協活動交流会	
みんなで地域福祉を考える	P.4
被災者に支援の手を届ける	
左京区災害ボランティアセンター	P.5
学生とともに活動しませんか？	
「左京×学生縁ねっと」広がってます！	P.6
北部支援 自然を感じながら地元の人達と交流	
雪かきボランティア	P.7
認知症の方やご家族の集いの場「おれんじサロンさきょう」	P.7
左京区をあったかくする取り組み	P.8

# 当事者・実践者の声を 地域福祉活動に活かそう！

左京区社会福祉大会 地域福祉シンポジウム開催

大会は昨年11月30日、多年にわたり社会福祉・ボランティア活動の発展に貢献された方々の表彰式典から始まりました。

シンポジウムは、左京区地域福祉推進委員会と共催し、関係者の多様な連携のあり方などについて大いに語り合い、交流を深め、地域福祉活動の充実・前進を図ることを目的として開催され、約200名の参加がありました。藤井優三委員長（別所社会福祉協議会会長）の進行により、3名の当事者・実践者からの実践報告を聞き、参加者からは「当事者の声をもっと地域住民に広く伝えていくことが大切である」、等の意見や意気込みが表明されました。

(文責：事務局)



藤井委員長による進行



京都市北部障害者  
地域生活支援センター  
「きらリンク」センター長  
土屋 健弘氏

## 実践報告 認知症の方を 見守れる地域を めざして

認知症を患った場合によく見られる初期症状の一つに時間や季節、場所がわからなくなることがあります。外出した際、自分がどこにいるのかわからなくなり迷子になるといったことが起こります。私たちは、自分の家族や身近な人が認知症により行方がわからなくなったとき、あるいは地域で「あれ？あの人、心配だな。」と思う人に出会ったとき、どのように対応したらよいのでしょうか。

高齢者分野からは、誰もが住みやすい安心・安全のまちづくりを目指して活動実践されている京都市岩倉地域包括支援センターの松本氏より報告をして頂きました。

岩倉の地域では早くから地域包括支援センターが中心となり、認知症の人が行方不明になったという設定のもと、高齢者等を探すためのしくみを活用して、捜索・発見に至るまでの流れを「声かけ訓練・行方不明者捜索訓練」として実施されています。この訓練では、認知症による行方不明者を探しただけ早く安全に保護することを目標



京都市岩倉地域包括  
支援センター センター長  
松本 恵生氏

し、認知症を正しく理解し、道に迷っている時に本人の気持ちに配慮した声かけや見守り方法をより多くの地域住民に知ってもらうため、地域の行事や交通機関等と合同訓練を実施されています。また、次世代を担う地域の子どもたちを対象に児童館や小学校の総合学習の場で、認知症の理解を深める認知症サポーター講座も開催されています。講座に参加した子どもたちが、保護者と学んだことを話すことで、講座の受講がしにくい若い親世代にも興味関心をもってもらうきっかけになっています。

この取り組みによってできた地域全体で支えるつながりは、高齢者分野だけでなく、災害対策や障害者、子どもを見守る等「地域で暮らす全ての人々」に共通するものかもしれないという投げかけがありました。

★地域包括支援センターは、地域で暮らす高齢の方を介護や福祉、健康、医療などさまざまな面から総合的に支援するための公的な相談窓口です。



特定非営利法人  
「京都いえのこと勉強会」理事長  
木本 努氏

シングルファザーになり、子育て家事を通じて子育ては親育て、育児は育自（自分を育むこと）であることを教えられたそうです。シングルファザーは、孤育てになると言われるそうですが、地域のつながりがあったことが木本氏の子育ての大きな助けになったそうです。今後の課題として、父子家庭のコミュニティづくり、父子手帳をつくりたいと話されていました。

★NPO法人「京都いえのこと勉強会」は、シングルファザーになった方々を対象に、「家事IIいえのこと」に関する講座開催や、ひとり親家庭の課題を抱える方の社会参加を支援する活動など、ひとり親家庭とくに父子家庭を中心とする活動を展開しています。

## 実践報告 地域は つながりの原点

ご自身が奥様を病気で亡くされ父子家庭となつてからの経験やNPO法人「京都いえのこと勉強会」を設立するに至った経緯、現在の活動について語っていただきました。

木本氏が、シングルファザーとなった時、仕事に加え、3人のお子さんの子育てと家事をしなければならぬ現実と直面し、とても苦労されました。さらにいままでも関わってこなかった学校のこと、幼稚園のこと分らないことが次々出てきたそうです。そんな状況から木本氏を救ってくれたのは、それまで奥様が関わっておられたママ友や地域の方でした。

父子家庭になったとき、頼れる相談窓口がなくなつたご自身の経験から学んだことを発信したいとの思いから、現在のNPO法人「京都いえのこと勉強会」を設立されました。

ご自身が苦労された料理や裁縫教室の開催や、悩みを話し合える懇談会を開催する等ひとり親家庭への支援を行っています。

## 実践報告 障がいのある人たちの 地域での 暮らしの中で

障害者施設の前職員が多くの中居者を殺傷するという痛ましい事件を受け、京都市北部障害者地域生活支援センター「きらリンク」の土屋氏から、障がいのある人の「命」の価値について、障がいのある人との地域での関わり方について、ご自身が悩み、考えていることを述べて頂きました。

障がいのある人の「命」の価値に関しては、以前から様々な場面で議論されてきました。「価値ある命」「価値なき命」を分ける基準が、極めて慎重に議論され、線引きされたとしても、人為的に設定された「線」である限り、変更されてしまう恐れがあります。そして、仮にその「線」が誤りであったと後になって気付いたとしても、既に失われた「命」は取り返すことはできません。だからこそ「全ての命は価値がある」という立場に身を置きたいのだと土屋氏は言います。

しかし、地域の中では、障がいのある人はその生活の様子などから、他の住民とは異なる存在として区別してしまうことがあります。その際、地域の人

たちがその人を「迷惑な人」として見てしまうと、その人を地域から排除しようという考えが生まれてしまいがちで、そうなると、状況は良くならない確率が高くなってしまいます。そうではなく、障がいのある人が何か問題を抱えていそうなきに、「心配な人」として見つめる意識を持つてほしいというメッセージを土屋氏は参加者に投げかけられました。障がいのある人の生活を支援してきたご自身の経験から、「心配な人」という地域の眼差しは「排除」より「支援」を生みやすいということを感じて来られたからです。

最後に、障害者に関する課題・課題はすぐに解決できないことも多いですが、地域の皆さんと「心配から始まった悩みを話し合える地域」にしていきたいという想いを語って頂きました。

★障害者地域生活支援センターは、障がいのある人が利用できる福祉サービスについての相談のつたり、サービス利用の計画を考える等の仕事をされています。



# みんなで地域福祉を考える 学区社協活動交流会

左京区内  
28学区社協

左京区では毎年、各学区社協や関係機関が集まり左京区内の福祉活動を推進するための実践報告や意見交換を行っています。

今年は、「新・地域の絆づくりモデル事業を通じた今後の社協活動について」をテーマに、花脊・別所・八瀬・上高野・川東の学区から実践報告をいただきました。



## 実践報告① 花脊・別所社協

### 左京区北部地域に暮らす高齢者の生活課題について

北部地域からは、民生委員・老人福祉員の方から、高齢化率が50%を超える北部地域の現状と見守り活動について報告をいただきました。

この地域は、山間地で交通の便が悪く、買い物に行くにも近くに店がなく生協の個配が大きな役割を果たしています。

隣近所のつながりが強く、住民同士が見守り合いながら生活されています。しかし、地域住民の支え合いだけでは生活が難しくなってきた時、住み慣れたこの地域・自宅で過ごしたいと思っても在宅サービスの選択肢が少ないなど課題が明らかとなりました。



## 実践報告② 八瀬社協

### 八瀬の新たなコミュニティ「スマイルカフェ八瀬」

八瀬社協は、今年度、市社協の「新・地域の絆づくりモデル事業」のモデル学区として、「スマイルカフェ八瀬」を実施しています。

実施時間内であれば出入り自由であり、お茶を飲みながらおしゃべりしたり、健康マージャンやカラオケなどを楽しんでいきます。一般的に、地域の集いの場には、男性参加者が少ない傾向がありますが、自分たちのペースで楽しめるこの取り組みは、男性も10人以上参加され、ロコミで参加者が増えています。



## 実践報告③ 上高野学区社協

### 今日行くところがあるって素晴らしい「今日行く会」

上高野学区では、健康すこやか学級事業のひとつとして、「今日行く会」を実施しています。この会の特徴は、参加者が担い手となり内容を企画したり受付など当日の運営を行います。大正琴や将棋などを参加者同士が教え合いながら楽しんでいきます。参加者が自身が積極的に運営に関わることにより全員がやりがいを持ちながら活動することができ、いきいきと過ごされている様子が報告されました。



## 実践報告④ 川東学区社協

### 困ったとき気軽に頼られる存在へ「川東QQ隊結成をめぐって」

川東学区では、高齢の方が安心して暮らし続けられる地域づくりのひとつとして、ちょっとした日常の困りごとに対応する取り組みをめぐっています。高齢者を対象とした見守り活動の中で、アンケートを取るなどニーズ把握から活動を始められています。

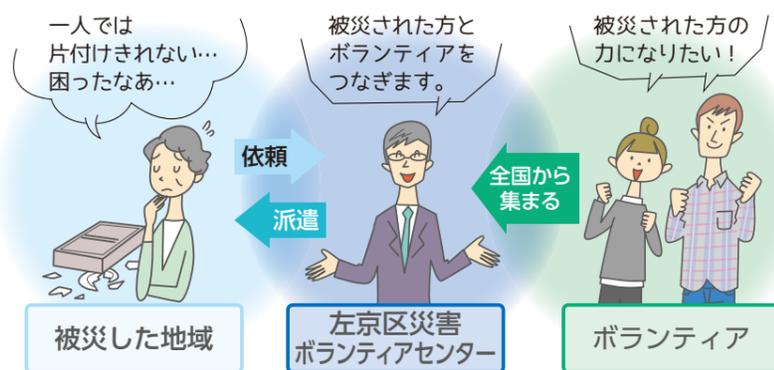


## 被災者に支援の手を届ける

# 左京区災害ボランティアセンター

大規模な自然災害により、被災した地域の復興のお手伝いをするのが災害ボランティアセンターです。社会福祉協議会は、災害ボランティアセンターを、発災後3日目を目標に開設し、全国から集まるボランティアを被災された方のもとへ派遣します。災害ボランティアの活動は、被災状況によって多岐にわたり、被災して困っている方にとっては、必要不可欠な存在です。地域団体や関係機関との連携により、被災者の困りごとの速やかな把握と支援を行う体制づくりを目指します。

## 被災者がボランティアの力を活用する仕組み



ボランティア依頼できる内容は被災状況によって多岐にわたります。

- 例) ●壊れた家具の片付け ●家財道具の運びだし
- 泥のかきだし など

※ボランティアは、一般の方々です。危険な作業や専門的な作業の依頼はできません。

## 一日も早い復興を可能にするために...

毎年、左京区災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施しています。発災後、一日も早く復興できる地域をめざして、地域団体や関係機関と連携した支援が行えるよう検討を進めています。

今年度は左京区役所で、実施いたしました。当日は、浅野区長をはじめ左京区災害対策本部、左京消防署等の行政機関のご指導と、多くの地域団体や関係機関の皆様にご参加いただきました。自分では支援を依頼できない被災者の困りごとを把握する方法や、災害ボランティアセンターに地域の困りごとを伝える体制づくりの必要性、普段から地域のつながりづくりをしておくことの大切さを認識する訓練となりました。



## 自然を感じながら地元の人達と交流 雪かきボランティア!!

左京区北部は自然豊かな美しい地域ですが、冬は数十センチも雪が積もり高齢の方にとっては雪かきも大変です。左京区社協ではそんな北部地域への支援の一つとして、「左京×学生縁ねっと」などと連携してボランティアを募り、北部の3地域（別所・花脊・広河原）の雪かきを行う活動を毎年行っています。

住民とボランティアが協力して雪かきをすることにより交流もでき、一方、ボランティアさんにとっては、北部地域の実情を知り、関心を持つきっかけにもなっています。



屋根の高さまで積もっています (広河原)



▲地元の方から説明を受け活動を開始します (花脊)



北部での暮らしについてお話を聞きました (別所)

## おれんじサロン さきょう

## レクリエーションやお茶を楽しみながら お話しませんか？

認知症の方やご家族の方が、気軽に集まり話せる場として、「おれんじサロンさきょう」を開催しています。年齢を問わず、また、「少しもの忘れがでてきたかな？」という方にも幅広くご参加いただいています。興味のある方は是非お気軽にお問い合わせください。

- 日時** 毎月第2木曜日 (祝日の場合変更有)
- 場所** 左京合同福祉センター (最終ページ地図参照) 3階 会議室
- 対象** 認知症の方、少しもの忘れが出てきた方 (年齢は問いません) 及びご家族で、本人が一人で来られるか、ご家族等と一緒に来られる方 (送迎はありません)
- 定員** 10名程度
- 内容** 茶話会・レクリエーション・歌・体操・外出企画等
- 費用** 無料 (ただし企画内容によって実費分を徴収する場合あり)
- その他** 出入り自由
- 問合せ** 左京区社会福祉協議会 (TEL.075-723-5666)



◀上賀茂神社へ紅葉狩りに

シーズネットさんのコンサート



◀脳トレの先生に来て頂きみんなで脳を活性化!



## 学生とともに活動しませんか? 「左京×学生 縁ねっと」広がってます!

### 「左京×学生 縁ねっと」とは…?

左京区では、「大学のまち・学生のまち」の特性を活かして、学生のパワーやアイデアを地域のまちづくり活動につなげるため、地域活性化プロジェクト「左京×学生 縁ねっと」事業を実施しています。地域住民と学生が出会い、一緒に活動することで「縁」が生まれ、左京区を盛り上げるプロジェクトです。

この事業は、左京区役所・NPO法人ユースビジョン・左京区社会福祉協議会が協働で実施しています。ホームページやLINE@などを活用して毎月情報発信を行っています。

学区社会福祉協議会・町内会等のイベントや日常の活動などで、「学生の力を借りたい、一緒に活動がしたい」という地域のみなさま、地域の活動に関わり、学校では得られない様々な年代の方との出会いや学びを体験したい、伝統事業に関わりたい」という学生のみなさま。縁ねっとがお手伝いをさせていただきます。是非、新たな一歩を踏み出すきっかけにご活用下さい。

### 縁ねっとではこのような活動を行っています。

#### あおい 子ども食堂



葵学区では孤食になりがちな子どもたちを主な対象に、気軽に立ち寄り、和気あいあいとした雰囲気の中で食事や交流を楽しんでもらうことを目的とした「あおい 子ども食堂」が毎月第1・3日曜日の12時から開催されています。お友達同士、お父さん・お母さんと一緒に来てもらうことはもちろん、地域の方のみで来て頂くこともできます。縁ねっとの学生ボランティアの皆さんは地域のボランティアさんと一緒に食事の準備の他、大きな「お兄さん・お姉さん」となり、子どもたちに遊びや勉強を教えてください。



#### 里山別所の世代間大交流



このイベントは、地元のお年寄りと親子が学生ボランティアと一緒に世代間交流を通して地域活性化に取り組んでいる別所社会福祉協議会の毎年恒例の行事です。今年度は元別所小学校の講堂にて開催されました。今回は地元の方の協力で、古くから京都の伝統和菓子として知られている「ちまき」づくりを体験しました。地元の方の手慣れた手つきで笹に団子を巻く姿に、学生ボランティアの皆さんからは歓声が上がっていました。また、鬼ごっこやボウリングゲームなど1日を通して交流を深めた学生ボランティアさんからは「伝統に触れ合うことができよかった。」「皆さんが家族みたいで羨ましく、魅力的な地域だと思った。」などの声が上がっていました。



縁ねっとについての詳しい情報、募集中のボランティア情報は左京区役所のホームページに掲載されています。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sakyo/page/0000205905.html>

# あったかくする 取り組み

## 地域あんしん支援員 設置事業

社会的孤立などの状態にあり、制度の狭間や支援拒否などにより福祉的な支援が必要であるにも関わらず、支援につながっていない方がおられます。この事業は、これらの方に継続して寄り添いながら、地域や関係機関と連携・協働し適切な支援に結び付けていきます。

支援に対する拒否をときほぐし制度利用に結びつけたり、学区社協、民生委員や老人福祉員による声かけなど、地域との関わりによる見守りの輪をつくり、問題の再発防止を目指しています。



## 日常生活 自立支援事業

高齢でもの忘れがある方や知的・精神の障害のため判断能力が十分でない方が、住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう、福祉サービスの利用援助や預金の出し入れ、公共料金等のお支払、郵便物の管理などを社会福祉協議会がお手伝いをするサービスです。

利用にあたっては、ご本人がサービス内容を理解でき、自分の意志で契約をしていただく必要がありますが、利用についてのご相談はご家族や関係者等、どなたからでもお受けします。まずは、ご相談ください。



## 地域支え合い活動創出事業

一人暮らしの高齢者や支援を必要とする高齢者が増加する中、医療や介護だけでなく、生活支援の充実が求められています。京都市では、地域住民団体、ボランティア団体や民間企業等の多様な主体が生活支援サービスを提供し、色々な生活支援ニーズに応える体制づくりを進めています。

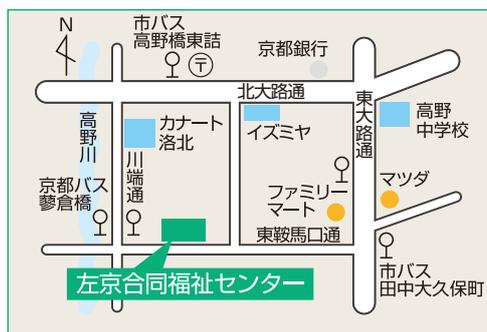
地域で高齢者を支えるために必要な生活支援サービス等の提供を効果的に創出できるよう「地域支え合い活動創出コーディネーター」が各区に配置されました。

地域支え合い活動創出コーディネーターの主な役割は右記の4点です。



社会福祉法人  
**京都市左京区社会福祉協議会**  
左京区ボランティアセンター

発行責任者 山田 榮一  
〒606-8103 京都市左京区高野西開町5番地  
京都市左京合同福祉センター 3階  
TEL 075-723-5666 / FAX 075-723-5665  
E-mail s-csw@sakyoku-syakyo-kyoto.jp  
ホームページ <http://www.sakyoku-syakyo-kyoto.jp/>



●最寄バス停  
市バス北8、204、206号系統「高野橋東詰」バス停下車7分  
31、(204、206)号系統「田中大久保町」バス停下車5分  
京都バス16、17、21、23、32、34、35、41、43号系統「夢倉橋」バス停下車3分

\*合同福祉センターには駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。